

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	安全な生活環境及び地域経済活動環境をつくること
(2) 事業の必要性(背景)	<p>(ア) 不発弾(E R W) 汚染状況等</p> <p>パラオ共和国では第2次大戦でのE R Wが200の島々で発見されている。戦時中、パラオに発射または投下された砲爆弾は2,800トンと見積もられ、現在でも多くのE R Wが処理されないまま地上、地下、海中に残されたままとなっており、産業開発や観光開発の妨げになっている。</p> <p>パラオ政府は対人地雷禁止条約に加盟するとともに、全省庁からなる国家地雷処理ワーキンググループ(NMAWG)を設立するなど地雷・不発弾処理に本格的に取り組み始めており、国際社会に支援を求めている。</p> <p>弊会がパラオ共和国でのE R W処理を目的に2度現地調査を行った際、コロール州周辺海浜および海中に散在するE R Wから爆薬の1種であるピクリン酸が漏洩していることを現地関係者から聴取すると共に、その事実を確認した。ダイバーや住民が漏洩したピクリン酸に触れた場合、火傷や頭痛などの傷害を受けるため、一部のダイビングスポットが閉鎖されるなど、海中汚染が深刻で、観光産業(パラオは世界有数のダイビングスポットであり、日本人含む世界中のダイバーが訪問している)に打撃を与えることが懸念されている。</p> <p>また、パラオ政府との協議の場では、弊会に対し、コロール州周辺海域のE R Wの処理を口頭にて強く要望するとともに、雇用する現地スタッフへのE R W処理補助者としての技術指導を要望している。</p>
(3) 事業内容	<p>(ア) 第1期事業では、パラオ港外のヘルメットレック周辺海域(約10,000㎡)を対象として、発見された爆雷を処理し、ヘルメットレック周辺海域の安全化を図るとともに現地スタッフの訓練及NMAWGへの助言を実施する。</p> <p>実施の概要</p> <p>(a) 爆雷の探査及び処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・爆雷の探査 ・発見された爆雷の処理 <p>(b) 現地スタッフへのE R W処理補助者としての訓練</p> <p>(c) NMAWGに対し、E R W処理に関する助言</p> <p>(イ) 第2期事業でヘルメットレックの残余の爆雷および及びロックアイランド周辺海域のE R Wを、第3期事業で、アラカベサン島沖におけるE R Wを処理するとともに、現地スタッフの能力向上に資する訓練を継続する。</p> <p>別紙1 コロール州周辺地図</p>

<p>(4) 持続発展性</p>	<p>(ア) E R W処理技術の移転 E R Wの探査・処理の技術面等において、J M A SのE R W処理専門家の高い技術をもって、デマイナーとして雇用する4名の現地スタッフのE R W探査・処理の補助者としての能力を付与する。なお、雇用するデマイナーは現在レインジャーとして海洋警察に所属しており、J M A S撤退後、技術移転を受けた4名が他のレインジャー隊員にE R W探査・処理技術を普及し、海洋警察として軽易なE R W処理に当たることが期待される。 別紙2 技術移転計画</p> <p>(イ) N M A W Gへの助言 N M A W GへE R W処理に必要な助言を行うことによって、J M A S撤退後、N M A W G独自でE R W処理計画等の策定を実施できることが期待される。</p>
<p>(5) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>(ア) 事業により期待される成果</p> <p>(a) ヘルメットレックの爆雷を処理して、ピクリン酸の漏洩を防止すれば、パラオの観光資源である豊かでクリーンな海の汚染状況を改善できる。</p> <p>(b) J M A SのE R W処理専門家が、E R W処理技術について、現地スタッフ処理員4名に処理補助者としての能力を付与する。</p> <p>(イ) 成果を測る指標</p> <p>(a) E R Wの処理数</p> <p>(b) E R W処理技術を移転する4名の現地スタッフ処理員に「別紙1 技術移転計画」に示す潜水技術についてはレベル7まで、E R W処理技術についてはレベル6まで技術を向上させる。</p>